

令和3年度 すくすくウォッチの結果について

令和3年(2021年)10月29日
枚方市立氷室小学校

調査の目的等

1. 調査目的

○子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につける。

2. 調査実施期間及び調査の対象

令和3年(2021年)5月26日(水)～6月2日(水) 小学校第5・6学年の児童

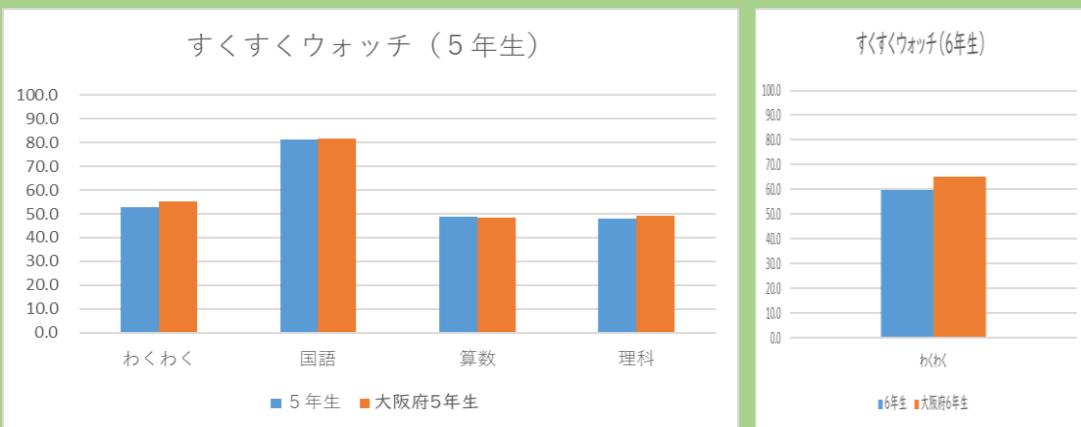
3. 調査内容

(1) 教科に関する調査

5年生・・・国語・算数・理科・わくわく問題(教科横断型)・アンケート

6年生・・・わくわく問題(教科横断型)・アンケート

令和3年度すくすくウォッチの結果



全体的な傾向について

わくわく問題:5年生・6年生ともに大阪府の平均正答率を下回っています。

特に図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えをもち、伝える力に課題があることがわかりました。

国語:大阪府の平均正答率をわずかに下回っていますが、ほぼ同等でした。

特に、知識及び技能における「情報の扱い方」に関する力に課題が見られました。

算数:大阪府の平均正答率をわずかに上回っていました。

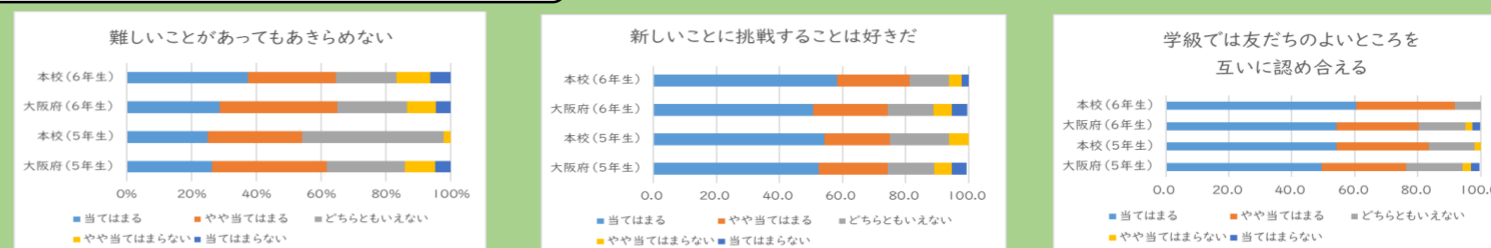
特に、図計領域の力に大きな課題が見られましたが、その他の領域はほぼ上回っていました。

理科:大阪府の平均正答率をわずかに下回っていましたがほぼ同等でした。

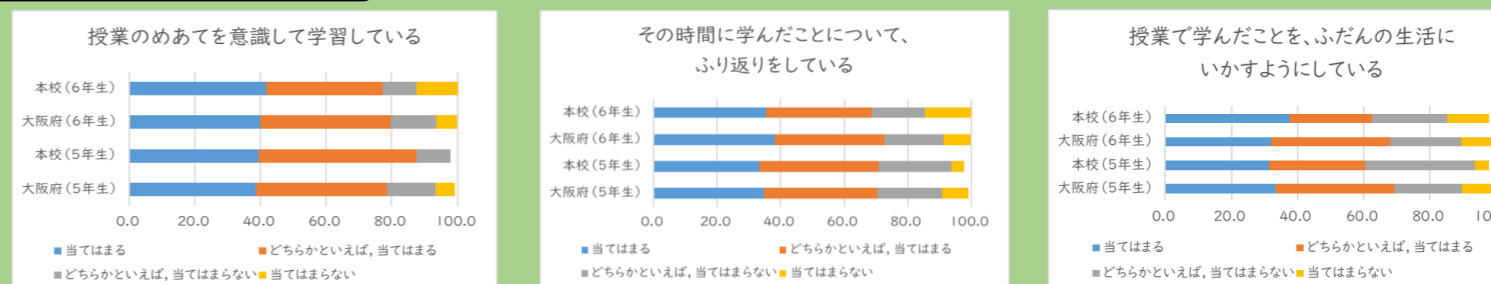
「生命」、「地球」といった科学の基本的な概念については課題が見られました。

児童アンケートの結果

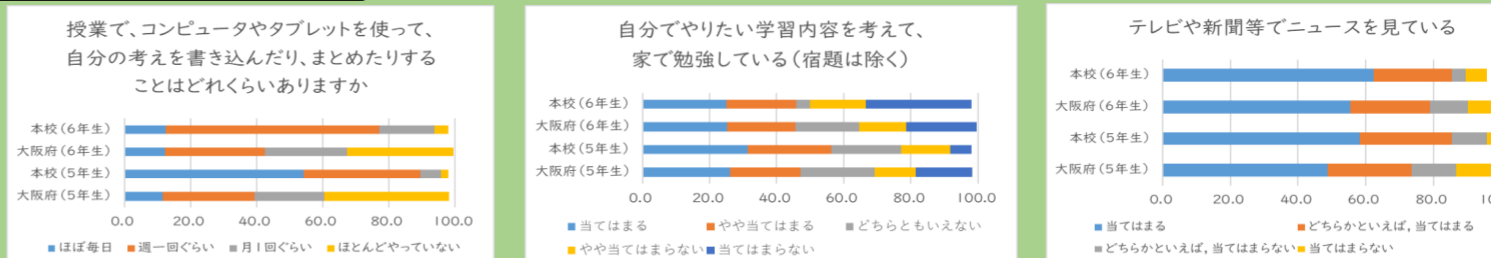
目標に向かって頑張る力・好奇心



学校・授業での様子



授業・家庭での様子



今年度の結果及び今後の取り組みについて

令和3年度から始まった「すくすくウォッチ」では、全体的に大阪府の平均と同等またはわずかに下回る結果になりました。しかし、アンケート結果からは、「目標に向かって頑張る力」の指標として、「新しいことに挑戦すること」について、肯定的意見が大阪平均を大きく上回ったことは、困難に立ち向かう姿勢として前向きな意見が見られました。

また、ICTを活かした学習への取り組みについては大阪府平均を二倍近く上回り、新しい学習指導要領に基づいた学習スタイルが確立されていることが伺えました。

結果につきましては、5年生、6年生ともに大阪府平均とほぼ同等といえますが、5年生、6年生が共通して、教科横断型の問題である「わくわく問題」については、大阪府の平均を少し下回りました。このことから、基礎的な力は概ねついていますが、応用力に課題があるといえます。

今後は、児童の応用力を高めるための思考ツールとしてICTの効果的な活用方法を追求していくとともに、基礎学力の定着も継続して図っていきます。